

金研 先達との 出逢い 物語

きんけんものがたり

本多先生 大阪での足跡 – 後編 大阪でのお写真から

情報企画室広報班

前編でも記しましたが、本多先生は1932(昭和7)年に大阪府金属材料研究所の所長に就任される以前から大阪の企業に対し技術支援を行っていました。しかし、残念ながらその経緯や活動の内容は詳らかではありません。平成18(2006)年に設立した本所大阪センター(現関西センター)と、大阪府内の企業および大阪府庁との交流を通じて、本多先生の往時の企業支援活動の様子が、80年の時を経て少しずつ分かってきました。

その中で、関西センター正橋教授の共同研究企業を通して本多先生のお写真(写真1)が残っているとお話をいただきました。本編では、この写真を発端に明らかとなった史実を基に、本多先生がご指導された企

業と大阪府立産業技術総合研究所からお話を伺い、本多先生の足跡を辿ります。

【木村鋼化工場】

東洋金属熱錬工業所(会長:川寄龍四郎氏、社長:大山照雄氏)と東研サーモテック(社長:川寄修氏)は共に大阪市内で熱処理に携わる会社で、その前身は同じ木村鋼化工場でした。本多先生は1926(大正15)年に木村鋼化工場を訪問され、その時の写真が両社に残されていました。

■木村鋼化工場とは

木村鋼化工場は木村延一氏と筒井保太郎氏によって1909(明治42)年に

設立されました。

設立当初の木村鋼化工場は家族経営でしたが、当時熱処理を専門に行っていた会社は無く、熱処理の草分け的な存在と言われていました。現在では、(株)東洋金属熱錬工業所、(株)東研サーモテック、東洋冶金工業(株)、ニッパテック(株)に分社していますが、我が国の代表的な熱処理企業として、その技術は受け継がれています。

■本多先生の訪問

1926(大正15)年、木村延一氏は、従業員の熱処理技術の向上と高度化を目指し、木村鋼化工場に本多先生を招き講習会を開催しました。本多先生は、講義を通して従業員に熱処理の指導を行いました。

金研に関連した代表的な講習会、講演会ならびに大阪での活動と金研の動きの対比年表

年	講習会、講演会ならびに大阪での活動	金研の動き
1916(大正5)年		4月 東北帝国大学理科大学に臨時理化学研究所第2部発足
1917(大正6)年		KS 磁石鋼発明
1918(大正7)年	10月 第1回「鉄と鋼」講演会(丸の内帝国鉄道協会)	
1919(大正8)年	11月 第2回「鉄と鋼」講演会(丸の内帝国鉄道協会)	5月 東北帝国大学附属鉄鋼研究所設置 本多光太郎所長就任(初代)
1920(大正9)年	11月 文部省主催「鋼の焼入れ」講演と実習(東京蔵前 東京高等工業学校)	
1921(大正10)年	1月 文部省主催「鋼の焼入れ」講演と実習(東京築地 東京府立高等工芸学校)	
1922(大正11)年	4月 文部省主催「鋼の焼入れ」講演と実習(大阪 商工奨励館) 7月 第1回金属材料講習会*[以降毎年開催](金研)	8月 東北帝国大学金属材料研究所設置
1923(大正12)年	2月 第3回「鉄と鋼」講演会	
1925(大正14)年	4月 第3回「鉄と鋼」講演会	
1926(大正15)年	本多先生 木村鋼化工場を訪問	
1927(昭和2)年	村上先生 木村鋼化工場を訪問	
1929(昭和4)年	4月 大阪府立産業奨励館設立	
1931(昭和6)年		6月 東北帝国大学 本多光太郎総長就任
1932(昭和7)年	4月 大阪府金属材料研究所設立 本多光太郎所長就任(初代)	
1936(昭和11)年	4月 大阪府産業奨励館内に金属材料研究指導奨励部を設置し大阪府金属材料研究所を併合	
1938(昭和13)年	大阪府産業奨励館 高橋清館長就任	

*は現在の夏期講習会

